

# NIEを通して、地域に学び、地域とともに生きる生徒の育成

## ～総合的な学習における地域学習と新聞活用～

妙高市立妙高中学校

### 1 NIE実践のねらい

#### (1) 生徒の実態と課題

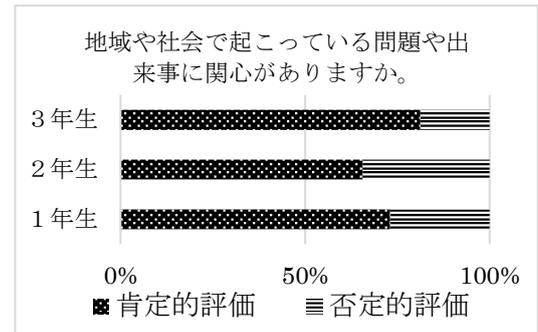
本校では、地域学習を柱に総合的な学習の時間を進めている。1年生では妙高山の歴史や文化を学び、2年生では地域の事業所で職場体験を経験し、3年生では妙高を語る会で、地域の将来と自分の生き方について地域の方々と語り合う学習活動を展開している。

このような教育課程の中で、どの学年の生徒もグラフ1のように地域社会への関心は比較的高いといえる。

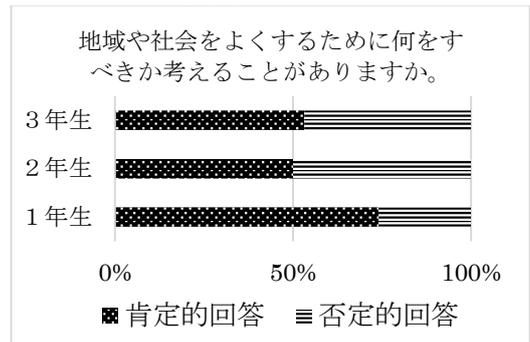
しかし、グラフ2のように地域社会をよりよくするための方策や地域貢献まで考えを深めていくことが現在の課題である。そこで、地域について学ぶための教材として、「新聞」を活用していくことで、地域を考える様々な視点を生徒が得ることができると考えた。本研究を通して、新聞の「詳報性、解説性、地域性、記録性、再読性」などの様々な特色を生かし、総合的な学習の時間の地域学習における新聞活用の可能性と課題について提案することを目標とした。

また、グラフ3から、学校や家庭で新聞を読んでいる生徒は、学年が上がるごとに割合が増えている。これは昨年度から取り組んでいるNIEの成果だと思われる。しかし、下学年では半数程度があまり読まないと答えていることから、意図的に新聞に触れる機会を学校でつくっていく必要がある。

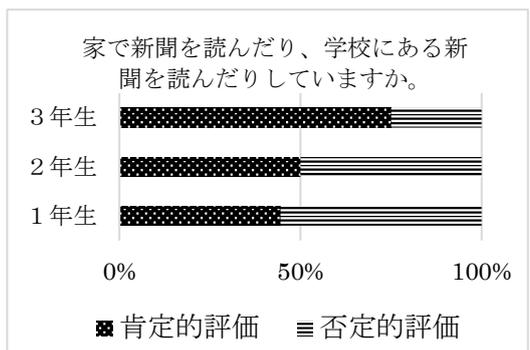
グラフ1（4月調査）



グラフ2（4月調査）



グラフ3（4月調査）



#### (2) 校内研修とNIEの関連

本校の校内研修主題は、「他者とのかわり合いの中で、よりよい生き方を求め、意欲的に学ぶ生徒の育成～主体的・対話的で深い学びを目指して」である。かわり合って学ぶことに主眼を置いた授業改善は、3年次になるが、今年度は、「よりよい生き方を求め」という部分を追記した。

昨年度の全国学力・学習状況調査で、「将来の夢や目標はありますか」という質問項目への肯定的回答が低く、授業を通して自己の生き方やあり方を考えさせていくことが課題であったからである。

そこで、NIEを通して、生徒が地域や社会についてより広い視野をもち、学びを教室内だけで終わらせることなく、実生活や社会、地域と自分とのかかわりなど、学びが新聞活用を通して豊かに広がっていくことが期待される。



ホワイトボードを活用した話し合いの様子

### (3) NIEを通して生徒に身に付けさせたい力

#### ① 地域について考えを深め、意見を発信する力

自分の住む身近な地域について関心をもつ、考える材料として新聞を活用し、地域の方々とかかわり合いながら、地域の将来のあり方について建設的な意見を発信することができる。

#### ② かかわり合って学ぶ力

NIEを切り口に、地域住民やクラスの仲間と共通の課題について対話を通して学びを深めていくことができる。

#### ③ 自己の生き方を考える力

社会と教室での学びの橋渡しとして、新聞を活用することで、生徒は自己の生き方や在り方に目を向けながら学習を進めていくことができる。

## 2 研究テーマ実現のための具体的な方法

本校では、全職員でNIEを推進していくため、職員を担当ごとにグループ分けし、それぞれがNIE研究主題を実現するために以下の活動を推進してきた。

### (1) 授業実践班

- ① 総合的な学習の時間で活用する新聞資料を収集する。
- ② 研究発表会に向けた指導案の作成と検討を行う。
- ③ 生徒のファシリテーションスキルの向上を図る。

### (2) 環境整備班

- ① 学年NIEコーナーを整備する。
- ② 学年NIEコーナーに、妙高に関わる記事を掲示する。

### (3) 広報班

- ① 1階中央廊下に新聞を設置する。
- ② 校内放送で妙高に関わる新聞記事を妙高ニュースとして紹介する。

### (4) 運営班

- ① 研究会に向けた渉外関係（NIE事務局や指導者との連絡・調整）を担う。
- ② 研究会の要項・資料の作成・準備を行う。
- ③ 研究会当日の運営（会場準備・協議会運営）を行う。

### 3 本年度の実践の概要

#### (1) 生徒の地域への興味・関心を高める工夫

##### ① NIE 妙高ニュース

放送委員会の活動として、週に1～2回程度、妙高にかかわる新聞記事の要約を昼の放送で全校生徒に伝えた。紹介した記事はNIEコーナーに掲示して閲覧できるようにした。新聞記事を読むだけでなく、聞くことで新聞への興味を高め、地域について考えるきっかけとなることを期待して行った。

##### ② 各学年のNIEコーナー

各学年の教室隣の多目的室にNIEコーナーを常設し、毎日の新聞を設置し、壁面には妙高に関わる記事を掲示した。生徒が日々の学校生活の中で目に触れやすい場所に地域の様々な情報を掲示することで、生徒の地域への興味・関心を高めることをねらった。それらの記事をもとに生徒がスピーチ活動を行った学年もある。

##### ③ 生徒と職員が共に読める新聞閲覧スペース

全校生徒が通る頻度が高い1階中央廊下にNIEコーナーを設置し、新聞を毎日設置し、生徒も職員も読めるスペースとした。放送委員会が放送で紹介する妙高ニュースを掲示したり、妙高地域に関わる新聞記事のスクラップファイルを置いたりして、新聞に気軽に触れることができる場所とした。



多目的室のNIEコーナー

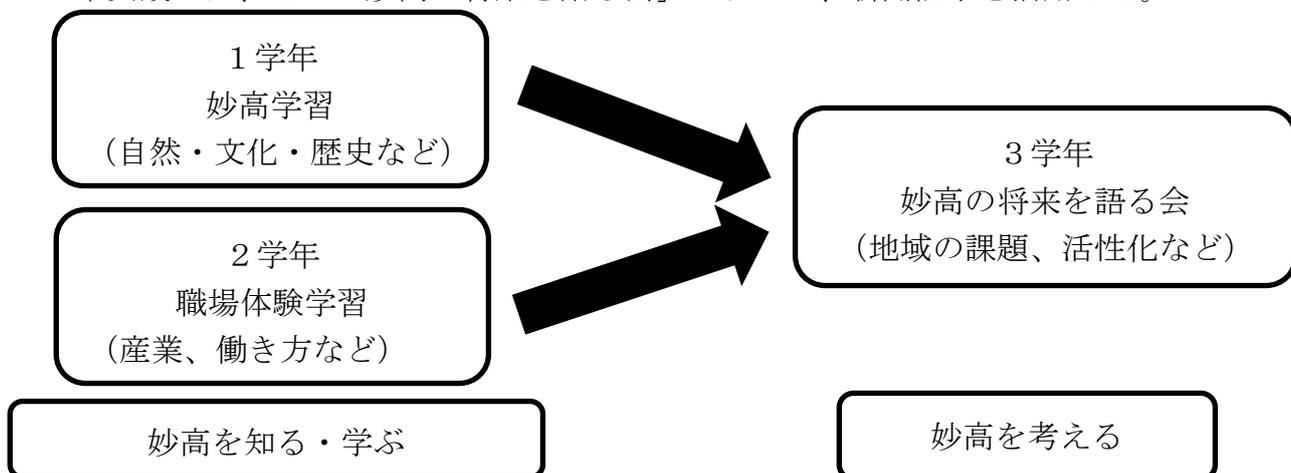


全校NIEコーナーで新聞を読む生徒

#### (2) 総合的な学習の時間 第3学年「妙高の将来を語る会」

本校の総合的な学習の時間では、地域学習を柱としている。下図のように、1、2年生では、「妙高を知る・学ぶ」、そして3年生では「妙高を考える」として、3年間の総合的な学習の時間の集大成として、地域の方々と「妙高の将来を語る会」を行っている。

本実践では、この「妙高の将来を語る会」において、新聞記事を活用した。



① 単元名 妙高の将来と自己の在り方を考える

② 単元の目標

ア 3年間の地域学習を総合して、地域に対する誇りと愛着を高め、地域に貢献できる知識や技能を身に付ける。

イ 新聞記事の分析や地域の方との話し合いをもとに、地域の課題や魅力を再発見し、地域の将来や地域活性化の方策を考えたり、自らの生き方について見つめ直したりする。

③ 単元の指導の構想

新学習指導要領（平成29年公示）では総合的な学習の時間の目標について、探究的な学習の良さを理解し、実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報収集・整理・分析し、まとめ、表現することを求めている。また、学習過程においては主体的・協働的に学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養うことが求められている。これを受け、当校の総合的な学習の時間では、社会参画の態度を育成するために「地域に学び、ともに生きる」を全体テーマとし、「地域学習」を学習活動の柱としている。

本単元では、今まで学習してきた地域について、課題や魅力を再度掘り起こし、地域の将来や活性化の方策について仲間や地域の方々と多様な考えを交流させながら、よりよい地域のあり方を提案したり、自己の生き方とつなげて地域について語ったりできるようにしたい。

④ 授業の実際

単元の導入では、新聞記事の見出しリストや過去の総合的な学習、身近な経験から地域の課題や魅力についてのテーマを決定した。例えば、「観光」、「土地活用」などである。そして、テーマに関わる過去から現在の新聞記事やインターネットを活用して追究活動を進めていった。その後、追究活動の内容をもとに、班ごとに妙高地域の「未来のカタチ」（地域の活性化や将来のあり方など）を作成した。

単元の後半では、各班のテーマに造詣の深い地域コメンテーター（行政関係職員や地元青年会など）を招き、「未来のカタチ」の提言を行い、コメンテーターとの意見交流を行った。これが「妙高を語る会」である。各コメンテーターからは地域の現状をもとに生徒の提言に率直な指摘・助言をいただいた。生徒はそれらをもとに、さらに自分たちの考える妙高地域の「未来のカタチ」を深めていった。

本実践の新聞記事活用のポイントは、生徒が地域について考えるきっかけ作り、そして、地域の魅力や課題を掘り下げ、コメンテーターとの対話の材料として活用することである。



コメンテーターに、班ごとに考えた「未来のカタチ」を提言する様子



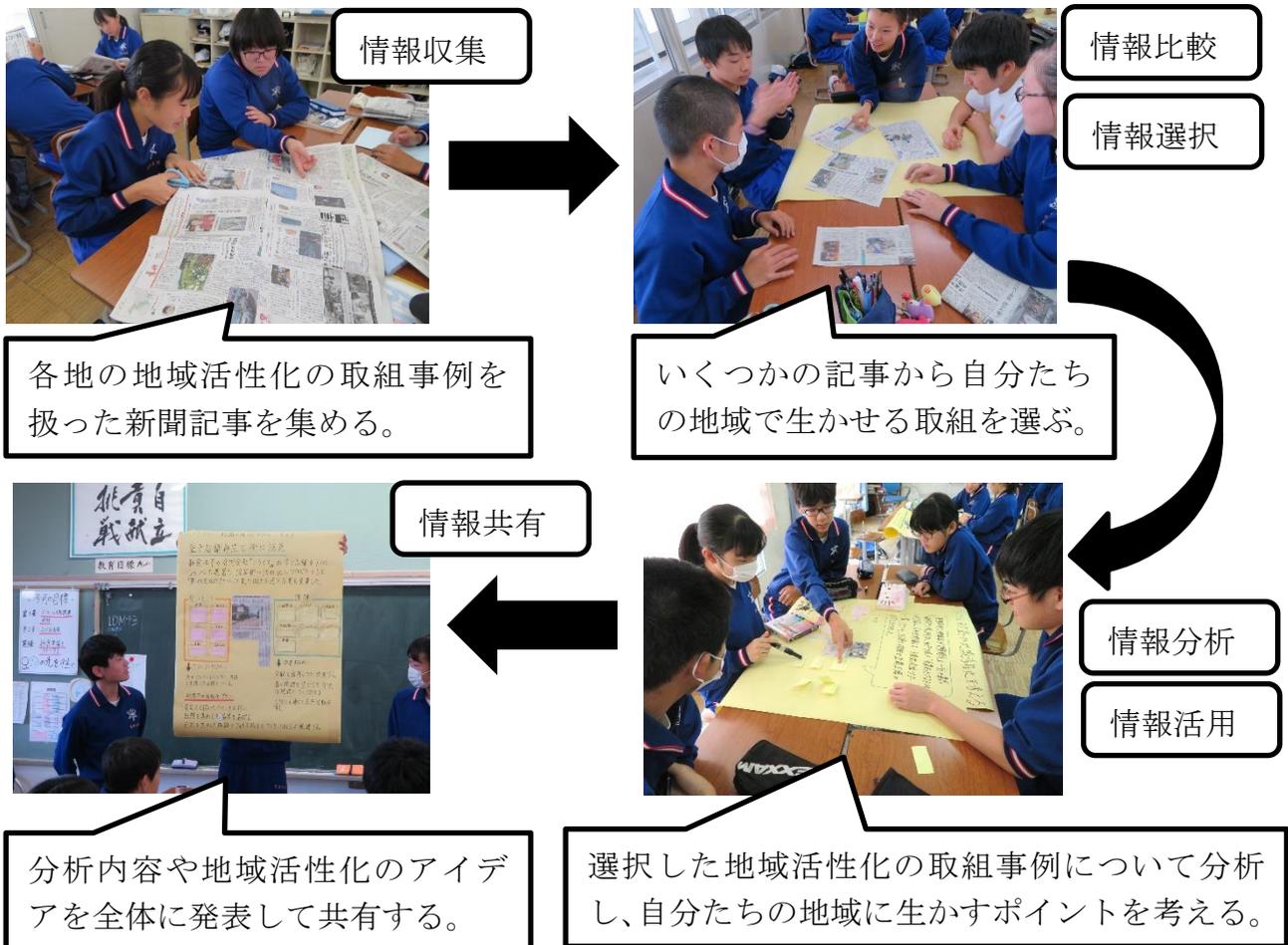
コメンテーターと考えを交流する様子

⑤ 生徒の振り返り（一部抜粋）

- 私は、以前は週に1～2回程度しか新聞を読んでいませんでしたが、今ではほとんど毎日新聞を読むようになりました。新聞を開いてみると、身近な話題から深く考えさせられる内容の記事までたくさんの情報があり、とてもおもしろいと思いました。私が特に興味のある記事は地域について書かれたものです。上越の記事はもちろんですが、NIEの学習中、中越や下越の記事からアイデアをもらうことも多くありました。自分たちの意見を地域で実現するにはまだ多くの課題がありますが、宮澤さんから教えていただいたことを忘れずに地域について考えていきたいと思いました。
- 私は、地域についてあまり考えたことがなかったけれど、NIEの学習を始めたことで、新聞を見る機会が増え、妙高を知るきっかけとなりました。私の提言は「安心して遊べる公園」ですが、調べ学習を通して知ったクラウドファンディングを行えば、予算も集められると思いました。地域の方と意見を交流する中で、自分たち若者が先人を切って物事を行うことが大切だと気付きました。

(3) 総合的な学習の時間と連動した授業 社会科 第3学年公民的分野「地方自治」

3年生では、総合的な学習の時間と連動して、社会科公民的分野の地方自治のまとめで、地域の課題（人口減少・過疎化）から、地域の活性化について新聞記事をもとに考える授業を行った。社会科で学習内容と総合的な学習の時間との連携を図り、生徒の学習により深まりをもたせることができた。授業の流れは以下の通りである。



## 4 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

本実践を通して、新聞記事の活用は、生徒が地域を考えるきっかけとして有効であると考えられる。特に本実践において、地域密着型の取材記事やコラムなどが地域学習で地域を知る・学ぶ機会をつくることに効果的であった。インターネットでは情報量が多く、話題がより日本や世界といった広い範囲のものが多く、新聞記事の地域欄の充実が新聞活用にとって重要なポイントだった。

また、地域のあり方を考える際に、実際に行われている取組事例などを新聞記事で確認することで、話合いに深まりをもたせることができた。成功例だけでなく、失敗例や課題なども新聞記事で探すことで、地域の魅力や課題をより深く考えることができた。当日の協議会では、新聞記事が地域や大人の社会と、生徒の学びをつなげる橋渡しの役割を担っていたという意見も出された。

また、生徒のアンケート調査から右のグラフ1～4のような意識の変容が見られた。グラフ1では、年度初め同様に地域社会への高い関心が維持されていることが分かる。また、グラフ2からは、総合的な学習の時間を通して、地域貢献への意識の高まりが見られた。これは、新聞活用を含めた「妙高の将来を語る会」の成果であるといえる。また、自己の生き方という観点からは、グラフ3のように将来の夢や目標を意識する生徒が大きく向上した。最後に、グラフ4を見ると、新聞を読むことに対する肯定的な意識も大きく向上している。本研究を通して、NIEが生徒の新聞への関わりを向上させ、地域学習への活用にも有効であることが確認された。

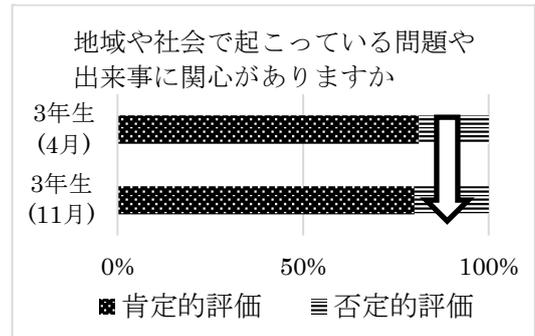
### (2) 研究の課題

成果が見られた一方で、意図的な新聞活用の難しさを実感した。新聞記事を日常的に読んだり、紹介したりする環境を整えなければ、生徒の新聞への興味・関心は高まらない。新聞が身の回りにある環境作りがNIE推進に重要なポイントである。

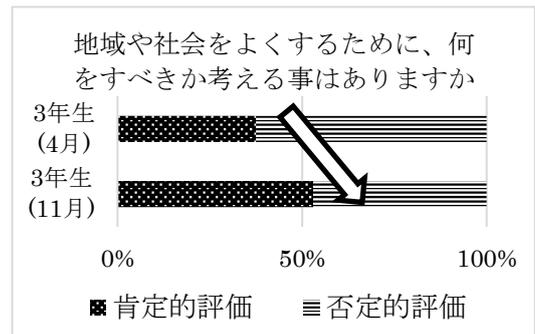
また、研究を通して過去の新聞記事、生徒や教師が使いたいと思う新聞記事を検索することの難しさに直面した。図書館等で検索・閲覧するシステムがあるが、身近な場面で新聞記事の検索や閲覧ができるようになると、より生徒の学びに効果的になると考えられる。

(丸山信昭)

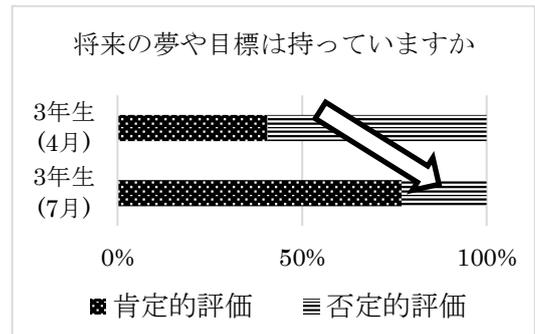
グラフ1



グラフ2



グラフ3



グラフ4

